

### 13 高次脳機能障害者の障害福祉サービス利用における課題

研究所脳機能系障害研究部/企画・情報部高次脳機能障害情報・支援センター

今橋久美子、深津玲子

【目的】高次脳機能障害者・児が障害福祉サービス等を利用する上での問題点および支援ニーズを明らかにすることを目的とした。

【方法】全国の高次脳機能障害支援拠点機関（平成30年4月1日現在103か所）に調査票を配付し、障害福祉サービス利用上の問題点および支援ニーズを調査した。

【結果】支援拠点機関50か所から調査票を回収した。高次脳機能障害者・児のサービス利用困難のべ189事例の内訳と主な理由を示す（表1）。

表1 サービス別利用困難事例数と主な理由

サービス	事例数	理由
就労継続支援B型	39	• 本人の易怒性が高く、他の利用者とトラブルになり、事業所から利用を断られた。
自立訓練(機能訓練・生活訓練)	28	
就労移行支援	21	• 記憶障害のため施設のルールが守れず、職員との関係が悪化して退去を迫られた。
移動支援	14	
障害者支援施設での夜間ケア等(施設入所支援)	13	• 知的障害者が多い施設に見学に行ったところ、本人が「自分はこんな障害者じゃない」と怒り出した。
共同生活援助(グループホーム)	12	
介護保険サービス	12	• 送迎がない事業所が多く、公共交通機関が少ない地域では通所手段がない。
就労継続支援A型	10	
居宅介護(ホームヘルプ)	6	• 事業所から高次脳機能障害に対応したプログラムや支援はしていないし、リハビリ専門職もいないので受入困難と言われた。
短期入所(ショートステイ)	6	
生活介護	6	• 記憶障害と衝動性の高さ、失語があり、高齢の両親では在宅支援が困難なため入所を希望したが、待機人数が多く、無断外出の可能性に対応できる人手もないという理由で断られた。
地域活動支援センター	4	
精神障害者保健福祉手帳	4	• 小児が高次脳機能障害のリハビリを受けられる社会資源がなく、学校との連携支援についての制度もない。
地域移行支援	2	
放課後等ディサービス	2	
重度訪問介護	1	
行動援護	1	
地域定着支援	1	
上記に含まれないサービス	7	

内訳は、就労継続支援B型に関するものが39件と最多であり、次いで自立訓練28件、就労移行支援21件と、訓練等給付に関する課題が主であった。

また、今後要望するサービスとして、移動支援や自動車運転の訓練・評価など76件挙げた。多かった要望は、「移動支援の拡充」「現行サービスの拡充」「自動車運転の訓練・評価」「リハビリの継続」「社会参加の場所」「障害に特化したサービス」「児童へのサービス」「休職中の支援」「事業所への啓発」であった。

【考察】本調査の結果、高次脳機能障害者・児の障害福祉サービス等利用困難理由および今後要望するサービスが明らかとなった。サービス利用困難理由は、①制度に関するもの、②事業所に関するもの、③本人に関するもの、④それらの組み合わせに関するものに分けられた。今後、当事者家族会を対象に追加調査および利用困難事例の多いサービスについては事業所にヒアリングを行い、サービス別・内容別に課題を整理し、高次脳機能障害の障害特性に応じた支援マニュアルを作成する。